

子供向けの国際問題に関するワークショップ開催

大正地区センターでは、子供の放課後の居場所として大正地区センターが心地よい場所となるように色々な取り組みを行っております。

その一環で、明治学院大学のボランティアセンターに所属する国際学科の学生が、小中学生向けに、世界をもっと知るためのワークショップを行いました。こんなこと知らなかった、世界の人こんなこと考えているのかなど、日常から少し離れて、子供が主体的に考え、行動を起こせるようになるための「参加型の国際問題に関するワークショップ」です。

プログラムは、学生が一所懸命考えて作成し、自らファシリテーターとして子供たちと楽しい時間を共有しました。

開催日・時間 : 7月5日 16:00~18:00

場所 : 大正地区センター

ワークショップ : ① 貧困の格差について (小学生3~6年 24名)

② 男女平等について (中学生 4名+先生)

学生 : 8名

ワークショップ内容

①小学生向け

3グループ(貧困層、少し裕福、大いに裕福)に分かれて、そのグループに沿った食事(模擬的にお菓子)をとり、強制的にグループ分けされて何を感じたかを皆で話しあいました。

- ・貧困層 : 少ないお菓子を自分で調達してフロアーに座って手で食べる
→ どうしてこのグループになったか不満
- ・大いに裕福層 : 沢山のお菓子をテーブルに座ってスプーンで食べる
→ 食べきれず、余ったものは分けてあげたい。
- ・少し裕福層 : 貧困層と大いに裕福層の間
→ ほどほどが良かった

世の中には、食事をとりたくても食べられない子が沢山いることを知って、明日から給食や食事を残さないでたべようね... と皆で約束してワークショップを終えました。



ここは便宜上貧困層グループ



便宜上大いに裕福グループ



自分の考えを発表



楽しい放課後になったかな

②中学生向け

初めに、女性グループは、「男はこうあるべき」男性グループは、「女はこうあるべき」と思っていることを書きだして、そのあとでその内容について本当らしさを皆で話し合いました。

- ・女は食事を作る。 → 食事を作れない女もいるよね。
- ・男は力仕事にあっている。 → 女の方が力持ちの人もあるよね

日頃、思っていること（先入観）が、よく考えると違っていることが多いことに気が付いたようです。



はじめに、漫画に、女、男がどのように描かれているか考えてみました。



「男ができる、男がすべき、男ができない、男がしてはいけない」ことを列挙



「女ができる、女がすべき、女ができない、女がしてはいけない」ことを列挙



男女平等を考えるきっかけになったかな？

以上